

小中社会科における学習内容の系統表

※学習内容は、教育出版教科書「小学社会」（平成27年度版）、「中学社会」（平成28年度版）の単元名で示しています。

学年	地理的な内容	歴史的な内容	公民的な内容	資料活用の系統		言語活動
				グラフの活用	地図の活用	
前期	小3 (3・4上) 「1 わたしたちの大好きなまち」 (身近な地域や市(区、町、村)の地形・土地利用、公共施設、交通の様子など) 「2 働く人とわたしたちの暮らし」 (地域の生産や販売の仕事)	「3 変わるわたしたちの暮らし」 (地域に残る昔の道具、生活の変化、文化財や年中行事)		表にまとめる。 表をもとにして棒グラフを作成する。 棒グラフから順位を読み取る。	方位の基本を理解する。 給地図を描く。 基本的な地図記号を知る。 地図は上空から見た土地の様子を平面上に表したものであることを理解する。 段彩から土地の高低を読み取る。 土地利用図を読み取る。	【学習をまとめる言語活動の表現形式】 【3年】 ・ポスター(自分たちの住む学区や市、区、町、村の様子を紹介する) ・広告のちらし(販売や生産の仕事の工夫を伝える) ・地図(地域に残る古い物の分布を表す) 【4年】 ・会議(事故の防止や災害への備えを地域に向けて発信する) ・キャッチフレーズ(廃棄物の減量や節水を呼びかける) ・手紙(自分たちの住む地域の発展に向けた願いを伝える) ・パンフレット(自分たちの住む都、道、府、県の特徴を紹介する) 【5年】 ・キャッチフレーズ(日本の国土の特徴を紹介する) ・新聞(日本の食料生産をめぐる課題について考察し伝え合う) ・意見文(日本の工業生産のあり方について考察し伝え合う) ・情報活用ルール(情報活用のあり方を考察し生活実践につなげていく) ・環境チェック表(環境の保全に向けて自分たちの暮らしのあり方を見直す) 【6年】 ・新聞(学習した時代の特色や歴史上の人物のはたらきについて考察し伝え合う) ・意見文(歴史学習を踏まえてこれからの社会のあり方を考察し伝え合う) ・話し合い(参政権について資料を活用しながら考察し伝え合う) ・宣言文(社会科の学習をふり振り返りながら中学校で学んでいきたいことを表現する) 【小学校の全学年を通して重視している言語活動の留意事項】 ・客観的事実と主観とを区別して表現する。 ・根拠を示して自分の考えを表現する。 ・自他の見解の共通点・相違点に着目しながら考えを深める。
	小4 (3・4下) 「7 わたしたちの県のまちづくり」 (47都道府県の名称と位置、県(都、道、府)の地形、主要産業、交通網、他地域との関わり)	「6 昔から今へと続くまちづくり」 (地域の発展に尽くした先人のはたらき)	「4 安全な暮らしとまちづくり」 (災害・事故の防止、関係諸機関や地域の人々の工夫や努力) 「5 健康な暮らしとまちづくり」 (水・電気・ガスの確保や廃棄物処理などの対策や事業)	棒グラフを読み取り、全体の傾向をとらえる。 グラフを読み取り、変化の理由を考える。 複数のグラフを関連づけて読み取り、その変化のあり方の違いに着目することを通じて追究すべき課題を見いだす。	地図帳の索引の使い方を理解する。 各種の主題図を読み取る。 等高線の基本を理解し、地形図から土地の高さを読み取る。 縮尺についての基本的な考え方を理解し、目的に応じた縮尺の地図を自ら選定して活用する。	
中期	小5 「1 わたしたちの暮らしと国土」 (世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、日本の位置と領土、国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人の生活) 「2 食料生産を支える人々」 (農業・漁業、土地利用の特色、運輸のはたらきなど) 「3 工業生産を支える人々」 (日本の工業生産の特色や工業地域の分布、貿易や運輸のはたらき)	「1 日本の歴史」 (古代～中世～近世～近代～現代) (各時代の特色、歴史上の人物(42人)のはたらき)	「4 暮らしを支える情報」 (放送・新聞などの情報産業、情報化された社会と国民生活との関わりなど) 「5 国土の自然とともに生きる」 (公害、国土保全と森林資源、自然災害の防止など)	折れ線グラフを読み取る。 雨温図を読み取る。 円グラフを読み取る。 帯グラフを読み取り、これまでの変化のあり方を踏まえて、今後について予想する。	地球儀を活用し、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置をとらえるとともに、地球上の実際の距離を測り、方位を調べる。 地球儀と地図(平面図)の基本的な違いを理解する。 経度・緯度についての基本的な考え方を理解する。 各種の主題図を読み取る。	
	小6 「3 世界の中の日本」 (日本とつながりの深い国の人々の生活の様子、国際的な交流・協力と日本の役割)		「2 暮らしの中の政治」 (地方公共団体や国の政治のはたらきと日本国憲法の基本的な考え方など)	課題に応じて必要なグラフなどの資料を自ら選定して活用する。		
後期	中1 【1編 世界のさまざまな地域】 「1章 私たちの地球と世界の地域構成」 「2章 人々の生活と環境」 「3章 世界の諸地域」 「4章 世界のさまざまな地域の調査」	「1章 歴史の移り変わりを考えよう」 「2章 原始・古代の日本と世界」 「3章 中世の日本と世界」 「4章 近世の日本と世界」		【地理】 ・小学3～5年で学んだ、地図とグラフのきまりや使い方を確認する。 ・地球儀や地図を活用して略地図を描いたり、主題図を読み取ったりする。 ・世界と日本の「地域調査」では、個人やグループで文献調査や現地調査を行い、結果を図や文章にわかりやすくまとめる。	【歴史】 ・時代の特色や変化を資料から読み取り、理由も含めて説明する。 ・各時代がどのような時代だったのかを、自分の言葉で説明する。	
	中2 【2編 日本のさまざまな地域】 「1章 日本の地域構成」 「2章 世界からみた日本のすがた」 「3章 日本の諸地域」 「4章 身近な地域の調査」	「5章 近代の幕開け」 「6章 近代の日本と世界」		【歴史】 ・小学6年で学んだ、「時代の分け方・年表の見方」を確認する。 ・「歴史のなかの単位」、「絵巻物の読み取り方」、「系図の読み方」などを学び、活用できるようにする。 ・中心資料や年表から、各時代の特色や流れを読み取る。	【公民】 ・情報源の基礎としての「新聞」について、小学5年での学習を振り返りながら、特色や紙面構成、情報の読み取り方、活用法を学ぶ。 ・情報の種類と活用法、グラフや写真資料の読み取りの際の留意点や、「クリティカル・シンキング」の意義を学ぶ。 ・読み物中心の特設：「読んで深く考えよう」で、6つの文章資料それぞれを身近な生活と結びつけて読み解き、要点や課題を自分なりに整理する。	【公民】 ・グループで「ディベート」や、「裁判シミュレーション」、「まちづくりの改善計画」の作成、「ポスターセッション」などを行い、意見をまとめたり、地域に提言したりする。 ・福祉が抱える課題を調査し、レポートにまとめる。 ・社会科のまとめとして、持続可能な社会を築く観点から、卒業作品を制作する。
中3 「1章 私たちの暮らしと現代社会」 「2章 人間を尊重する日本国憲法」 「3章 私たちの暮らしと民主政治」 「4章 私たちの暮らしと経済」 「5章 安心して暮らせる社会」 「6章 国際社会に生きる私たち」 【終章 私たちにできること】						

地理的な内容における小中の接続・関連

※学習内容は、教育出版教科書「小学社会」（平成27年度版）、「中学社会」（平成28年度版）の単元名で示しています。

学年	地理的な内容	学習の中心概念	取り上げている重要語句	
前期	小3 (3・4上) 「1 わたしたちの大好きなまち」 (身近な地域や市(区、町、村)の地形・土地利用、公共施設、交通の様子など) 「2 働く人とわたしたちの暮らし」 (地域の生産や販売の仕事)	学校のまわりや身近な地域にはさまざまな場所がある。それぞれの土地の様子、建物の様子、交通の様子は、場所によってちがいが見られる。 わたしたちのまちには、ものを売る仕事で働く人たちがいる。働く人たちは、仕事をするうえで、さまざまな工夫や努力をしている。	方位 給地図 土地の様子 公共施設 交通の様子 地図記号 値段 サービス 品質 産地 原料 衛生 出荷 農事暦 土づくり 都道府県 地形 産業 県庁所在地 交通 伝統的工芸品 昔からの技術 焼き物に使う材料 史跡や文化財 開発と保存 観光 貿易 友好都市(姉妹都市) 国旗	
	小4 (3・4下) 「7 わたしたちの県のまちづくり」 (47都道府県の名称と位置、県(都、道、府)の地形、主要産業、交通網、他地域との関わり)	県(都、道、府)には、特色ある地形とそれらを生かしたさまざまな産業がある。主な都市は平野を中心に分布し、それらを結びように交通が広がっている。 福岡県の東峰村では、伝統的な技術を生かした焼き物づくりがさかんである。人々はその伝統や技術を大切に守りつつ、協力して、地域のおよそを生かしたまちづくりに取り組んでいる。	福岡県は、国内の他の地域や外国と、さまざまな産業や交通、観光、文化などを通じてつながっている。特に、アジアの国々との交流が昔から盛んであり、そのつながりが今も続いている。	都道府県 地形 産業 県庁所在地 交通 伝統的工芸品 昔からの技術 焼き物に使う材料 史跡や文化財 開発と保存 観光 貿易 友好都市(姉妹都市) 国旗
中期	小5 「1 わたしたちの暮らしと国土」 (世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、日本の位置と領土、国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人の生活) 「2 食料生産を支える人々」 (農業・漁業、土地利用の特色、運輸のはたらきなど) 「3 工業生産を支える人々」 (日本の工業生産の特色や工業地域の分布、貿易や運輸のはたらき) 「5 国土の自然とともに生きる」 (公害、国土保全と森林資源、自然災害の防止など)	日本の国土の位置や広がり、特色として、ユーラシア大陸の東側にあり、大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合っていること、太平洋と日本海に囲まれた、南北に連なる大小の島々であること、などがある。 農家の人たちは、地域の自然条件を生かしながら、さまざまな工夫や努力をしておいしく安心して食べられる米をつくり、国内での米づくりを続けていこうとしている。 水産業に携わる人々は、水産資源と自然環境を守ることに気をつけながら、さまざまな工夫や努力をして新鮮で安心して食べられる水産物を消費者に届け、生産を続けていこうとしている。 自動車づくりには、開発から輸送まで多くの人が携わっており、さまざまな工夫や努力をして消費者や社会のニーズに応じた自動車を生産し、届けている。 日本の工業生産は、貿易や海外生産といった世界との結びつきに支えられており、互いの国の産業や人々の暮らしのことを考え、バランスよく貿易や海外生産を進めていくことが大切である。 災害の防止や水資源の確保、木材の供給など、森林にはさまざまなはたらきがあり、私たちの暮らしに欠かせない役割を果たしている。国土や暮らしを守るためにも、森林の保全を続けていくことが必要である。	日本の国土には、山地が多く広い平野が少ないこと、四季の変化があること、国土の北と南、太平洋側と日本海側とで気候の違いがあることなど、地形や気候にさまざまな特色が見られる。 気候や地形に特色のある地域では、その自然に合わせて、人々が暮らしや産業の中でさまざまな工夫や努力をしており、国土の自然環境は人々の生活や産業と深く関わっている。 安心して食べられる食料を、安心して確保し続けるためには、輸入だけに頼らず、自分たちの食生活やそれを支える国内の食料生産を見直し、生産や消費の工夫を続けていくことが大切である。	領土 国旗 山脈、山地 平野 梅雨 台風 季節風 家のつくり 特産品 土地の改良 水の管理 農業機械 耕地整理 品種改良 生産調整 鮮度 セリ トレーサビリティ 200海里 水産資源 育てる漁業 食料自給率 地域地産
	小6 「3 世界の中の日本」 (日本とつながりの深い国の人々の生活の様子、国際的な交流・協力と日本の役割)	日本は、経済や文化などの面で世界のさまざまな国とつながりを持っている。世界の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣をもつ人々と協調し合っていくことが大切である。	日本は、さまざまな形で国際交流や国際協力を行うことを通じて、平和な世界実現のために大きな役割を果たしている。	領土 国旗 山脈、山地 平野 梅雨 台風 季節風 家のつくり 特産品 土地の改良 水の管理 農業機械 耕地整理 品種改良 生産調整 鮮度 セリ トレーサビリティ 200海里 水産資源 育てる漁業 食料自給率 地域地産 ライン 関連工場 ジャスト・イン・システム方式 輸送手段 ニーズ エコカー 貿易 海外生産 天然資源 工業地帯、工業地域 大工場、中小工場 緑のダム 人工林 林業 自然災害 公共事業 減災 自助、共助、公助 公害防止条例 国際協力 高度経済成長
後期	中1 【1編 世界のさまざまな地域】 「1章 私たちの地球と世界の地域構成」 「2章 人々の生活と環境」 「3章 世界の諸地域」 「4章 世界のさまざまな地域の調査」	地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などを取り上げ、世界の地域構成を大観する。その際、大まかに世界地図を描けるようになる。 衣食住や宗教などを中心に、世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解する。 世界の諸地域について、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けてそれぞれの州の地域的特色を理解する。	→1.アジア-多様性と経済発展 2.アフリカ-人々の暮らしとその変化 3.ヨーロッパ-統合を強める国々 4.北アメリカ-世界に及ぼす影響力 5.南アメリカ-開発と環境 6.オセアニア-他地域との結びつき 世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、さまざまな地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題を設けて追究し、世界の地理的認識を深めさせるとともに、世界のさまざまな地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付ける。その際、資料の読み取り、地図の活用、論述、意見交換などの活動を充実させる。 →南アジア(インド)-地域の多様なすがた、人々の暮らしの変化、地域の課題	
	中2 【2編 日本のさまざまな地域】 「1章 日本の地域構成」 「2章 世界からみた日本のすがた」 「3章 日本の諸地域」 「4章 身近な地域の調査」	地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを取り上げ、日本の地域構成を大観する。その際、領土をめぐる問題にも着目し、都道府県の名称と位置、都道府県庁所在地を理解したうえで、おおまかに日本地図を描けるようになる。 世界の視座や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色をさまざまな面から大観する。 →①～③-地形 ④-気候 ⑤～⑥-自然災害・防災 ⑦～⑧-人口 ⑨-資源・エネルギー ⑩-産業 ⑪-交通・通信 日本をいくつかの地域に区分し、それぞれの地域について地域的特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて考察し、地域的特色を追究する。	→1.九州-環境問題と環境保全 2.中国-四国-人口や都市・村落 3.近畿-歴史的背景 4.中部-産業 5.関東-他地域との結びつき 6.東北-生活・文化 7.北海道-自然環境 身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付ける。その際、大きな地図や統計資料などを有効に活用して調査や論述、意見交換などの活動を充実させる。 →愛知県名古屋-観察、調査、結果をまとめて発表、地域に発信、レポートの作成	
中3 「1章 私たちの暮らしと現代社会」 「2章 人間を尊重する日本国憲法」 「3章 私たちの暮らしと民主政治」 「4章 私たちの暮らしと経済」 「5章 安心して暮らせる社会」 「6章 国際社会に生きる私たち」 【終章 私たちにできること】				

歴史的な内容における小中の接続・関連

※学習内容は、教育出版教科書「小学社会」(平成27年度版)、「中学社会」(平成28年度版)の単元名で示しています。

学年		歴史的な内容	学習の中心概念	取り上げている重要語句		
前期	小3 (3・4上)	「3 変わるわたしたちのくらし」 (地域に残る昔の道具、生活の変化、文化財や年中行事)	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちのまちには、昔から伝わる文化財や年中行事がある。それらには、人々の願いがこめられており、まちの人たちによって大切に受けつがれている。 古くから伝わる道具には、昔の人々の生活の知恵や工夫がこめられている。昔から今への道具のうつり変わりとともに、人々の生活も変わってきている。 	祭り 文化財 郷土げいのう 年中行事 道具のうつり変わり 年表		
	小4 (3・4下)	「6 昔から今へと続くまちづくり」 (地域の発展に尽くした先人のはたらき)	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住んでいる地域には、よりよい暮らしを求める人々の願いにこたえて、地域の発展に尽くした先人がいた。その働きと苦心によって、地域は新田開発されて発展し、人々の生活は向上した。 	新田開発 人々の願い 工事の工夫		
中期	小5	「1 日本の歴史」(古代～中世～近世～近代～現代) (各時代の特徴、歴史上の人物(42人)のはたらき)	<ul style="list-style-type: none"> 狩猟・採集を中心とした生活から農耕の生活へ人々の暮らしが変化し、社会の様子も変わっていった。各地に大きな勢力をもつ豪族が現れ、やがて大和朝廷によって国土が統一された。 大陸の政治や文化に学びながら、天皇を中心とした中央集権の国づくりが進められ、都に大仏がつくられたことに確立した。やがて、大陸の文化を消化・吸収する中で、独自の日本風の文化がおこった。 武士が力をもつようになり、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて、武士による政治が始まった。 京都の室町に幕府が置かれたことに生み出された文化は、現在の生活文化につながる要素をもっており、今も多くの人々に親しまれている。 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の活躍によって、全国が統一されていった。 江戸幕府のもとで、武士を中心とする身分制度が確立し、武士の政治が安定した。 社会が安定する中で、人々が力をつけ都市が発達していった。そうした中から、歌舞伎や浮世絵などの新しい文化や、国学や蘭学などの新しい学問が生み出され、発展した。 明治政府は、西洋の文化を取り入れながら、近代的国家を目指して政治や社会の新たなしくみづくりを進めた。 日清・日露戦争での勝利や不平等条約の改正、科学の発展への貢献などによって、日本の国力が充実し、国際社会における地位が向上していった。また、産業の発展にともなって、人々の暮らしや社会が変化した。 日本は、アジア・太平洋地域で世界の国々と戦争をし、長く続いた戦争によって、国民は大きな被害を受け、他国にも大きな損害をあたえた。 戦後、日本は平和で民主的な国づくりに取り組み、国際社会からの信頼を回復した。国民生活も豊かになり、国際社会において重要な役割を果たしてきた。 	米づくり 大和朝廷 古墳 渡来人 卑弥呼 天皇 仏教 貴族 日本風の文化 聖徳太子 小野妹子 中大兄皇子 中臣鎌足 聖武天皇 行基 鑑真 藤原道長 紫式部 清少納言 武士 鎌倉幕府 ご隠と奉公 元との戦い 平清盛 源頼朝 源義経 北条政子 北条時宗 室町幕府 書院造 水墨画 足利義満 足利義政 雪舟 全国統一 キリスト教 検地 刀狩 江戸幕府 織田信長 武田勝頼 ザビエル 豊臣秀吉 徳川家康 参勤交代 鎖国 身分 徳川家光 天草四郎 ジャクシャイン 歌舞伎 浮世絵 国学 蘭学 近松門左衛門 歌川広重 葛飾北斎 松尾芭蕉 杉田玄白 前野良沢 本居宣長 伊能忠敬 ペリー 開国 百姓一揆 打ちこわし 明治維新 富国強兵 文明開化 自由民権運動 大日本帝国憲法 大塚平八郎 坂本龍馬 徳川慶喜 勝海舟 明治天皇 西郷隆盛 大久保利通 木戸孝允 岩倉具視 福沢諭吉 板垣退助 大隈重信 伊藤博文 渋沢栄一 条約改正 日清戦争 日露戦争 民主主義 東郷平八郎 与謝野晶子 陸奥宗光 小村寿太郎 田中正造 新渡戸稲造 北里柴三郎 野口英世 志賀潔 平塚らいてう 満州 太平洋戦争 空襲 沖縄戦 原子爆弾の投下 日本国憲法 東京オリンピック 高度経済成長		
	中1			「1章 歴史の移り変わりを考えよう」 「2章 原始・古代の日本と世界」 「3章 中世の日本と世界」 「4章 近世の日本と世界」	【各章の学習に共通】 ・各章の終わりの「学習のまとめと表現」において、学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を行い、各時代の特徴をとらえる。その際、次の章のとびらと連動した資料の比較などを通して、時代の変化や移り変わりをとらえ、次の時 ・【第1章：歴史の移り変わりを考えよう】小学校での学習を踏まえ、「タイムトラベルサミット-2016」や「歴史にアプローチ」などの活動をもとに、我が国の歴史上の人物やできごとなどについて調べたり考えたりするなどの活動を通して、時代 ・【第2章：原始・古代の日本と世界】世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアとのつながりなどを通して、世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解する。律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れ ・【第3章：中世の日本と世界】鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なつながりがみられたことを理解する。農業など諸産業の発 ・【第4章：近世の日本と世界】戦国の動乱、ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを通して、近世社会の基礎がつけられていったことを理解する。江戸幕府の	代の特色に対する問題意識をもちながら、新たな時代の学習に取り組んでいくことを繰り返していく。 の区分やその移り変わりに気づかせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。 ながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や皇族の政治が展開したことを理解する。仏教の伝来とその影響、かな文字の成立などを通して、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解する。考古学などの成果を活用するとともに、神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気づく。 達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。 成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して、江戸幕府の政治の特色を考え、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。
	中2			「5章 近代の幕開け」 「6章 近代の日本と世界」	・【第4章：近世の日本と世界】産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりがなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれ ・【第5章：近代の幕開け】欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する ・【第6章：近代の日本と世界】富国強兵・殖産興業政策、文明開化などを通して、新政府による改革の特色を考え、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを通して、立憲制の国家が成立して議会政治が	たことを理解する。社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを通して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解する。開国の影響による攘夷運動の高まりと倒幕への動き、さらに大政奉還と江戸幕府の滅亡に至った激動の時代の経過を、活躍した人物などを通して理解する。 始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解する。我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを通して、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。
中3	「7章 二度の世界大戦と日本」 「8章 現代の日本と世界」	・【第7章：二度の世界大戦と日本】第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和 ・【第8章：現代の日本と世界】冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを通して、第二次世界大戦後の諸改革の特色を考え、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。高度経済成長、国際社会とのかわ	初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。 り、冷戦の終結などを通して、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。			

公民的な内容における小中の接続・関連

※学習内容は、教育出版教科書「小学社会」(平成27年度版)、「中学社会」(平成28年度版)の単元名で示しています。

学年		公民的な内容	学習の中心概念	取り上げている重要語句	
前期	小3 (3・4上)	「2 働く人とわたしたちのくらし」 (地域の生産や販売の仕事)	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちのまちには、ものを売る仕事で働く人たちがいる。働く人たちは、仕事をするうえで、さまざまな工夫や努力をしている。 	値段 サービス 品質 産地 原料 衛生 出荷 農事暦 土づくり	
	小4 (3・4下)	「4 安全なくらしとまちづくり」 (災害・事故の防止、関係諸機関や地域の人々の工夫や努力) 「5 健康なくらしとまちづくり」 (水・電気・ガスの確保や廃棄物処理などの対策や事業)	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故や事件から地域を守るために、警察署を中心に、関係する諸機関や地域の人々が相互に協力、連携しながら地域の安全を守っている。 自分たちの生活から出たごみは、衛生的に処理されている。ごみ処理の対策や事業は、市と地域の人々との協力によって計画的に進められており、それによって、自分たちは快適で健康に暮らしていくことができる。 暮らしに必要な水道水を確保していくために、水道事業が広い地域の協力と人々の努力によって計画的に行われ、使った水は適切に処理されている。それによって、人々は健康で快適に暮らしていくことができる。 	交通ルール 110番のしくみ 安全会議 こども110番の家 119番のしくみ 消防計画 消防設備 消防団 防災計画 ごみの分別 清掃工場 リサイクル 資源ごみ 最終処分場 3R 浄水場 ダム 水源の森林 節水 下水処理施設 水の循環	
中期	小5	「1 わたしたちのくらしと国土」 (世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、日本の位置と領土、国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活) 「2 食料生産を支える人々」 (農業・漁業、土地利用の特色、運輸のはたらきなど) 「3 工業生産を支える人々」 (日本の工業生産の特色や工業地域の分布、貿易や運輸のはたらき) 「4 くらしを支える情報」 (放送・新聞などの情報産業、情報化された社会と国民生活との関わりなど) 「5 国土の自然とともに生きる」 (公害、国土保全と森林資源、自然災害の防止など)	<ul style="list-style-type: none"> さまざまなメディアを通じて、暮らしに必要な情報を速く正確に伝える工夫や努力が行われており、私たちはそれらの情報やメディアを上手に生かしていくことが大切である。 図書館や病院などで利用されている情報ネットワークは、多くの情報をすばやくやりとりするの役に立ち、私たちの暮らしを便利にしている。 災害の防止や水資源の確保、木材の供給など、森林には暮らしに欠かせないさまざまなはたらきがあり、国土や暮らしを守るためにも、森林の保全を続けていくことが必要である。 生活環境が汚れると、人々の暮らしや健康に大きな影響が出る。公害や環境破壊を発生させないために、住民や市などが協力して、環境にやさしい取り組みを続けていくことが大切である。 	インターネットが広まり、多くの情報があふれている今の暮らしの中では、私たちも責任をもってルールを守りながら、情報を受け取ったり発信したりすることが大切である。 ・日本の国土では多くの自然災害が発生し、それらの被害を少しでも減らすために、国や都道府県、地域の住民などが協力し合い、さまざまな対策を進めている。私たち一人一人が、日頃から防災の意識をもって行動することも大切である。	
	小6	「2 暮らしの中の政治」 (地方公共団体や国の政治のはたらきと日本国憲法の基本的な考え方など) 「3 世界の中の日本」 (日本とつながりの深い国の人々の生活の様子、国際的な交流・協力と日本の役割)	<ul style="list-style-type: none"> 国民の暮らしは、地方公共団体や国の政治と深く結びついており、地方公共団体や国は、主権者である国民の暮らしの安定と向上のために重要なはたらきをしている。 国民の暮らしは、地方公共団体や国の政治と深く結びついており、地方公共団体や国は、災害から国民の命や暮らしを守るために重要なはたらきをしている。 	・憲法は、国の政治の基本的なあり方を定めており、民主的で平和な社会を旨とする日本の政治は、日本国憲法の考え方に基づいている。	
後期	中1	「1章 私たちの暮らしと現代社会」 「2章 人間を尊重する日本国憲法」 「3章 私たちの暮らしと民主政治」 「4章 私たちの暮らしと経済」 「5章 安心して暮らせる社会」 「6章 国際社会に生きる私たち」 「終章 私たちができること」	<ul style="list-style-type: none"> 【第1章：私たちの暮らしと現代社会】現代日本の特徴として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解するとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付く。また、科学、芸術、宗教などを中心とした現代社会における文化の意義や影響、暮らしとの関わりを理解するとともに、我が国の伝統と文化に関心をもち、文化の継承と創造の意義に気付く。さらに、人間は 【第2章：人間を尊重する日本国憲法】人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解するとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解し、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行 【第3章：私たちの暮らしと民主政治】国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解し、議会制民主主義の意義について理解するとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深める。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解するとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加 【第4章：私たちの暮らしと経済】身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解するとともに、価格の動きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解する。また、現代の生産や金融などの仕組みや動きを理解させるとともに、社会にお 【第5章：安心して暮らせる社会】社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考える。また、国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の 【第6章：国際社会に生きる私たち】世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識し、国際社会における我が国の役割について考える。その際、日本国憲法の平和主義に 【終章：私たちにできること】持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究し、自分の考えをまとめる。 	本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、さまじりの意義について考え、現代社会をどう見るかという見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解する。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることに意義及び個人の責任などに気付く。 われていることの意味について考える。また、日本国憲法が基本的人権の尊重、民主主義及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に關する行為について理解する。 の関連について考える。その際、選挙の意義について考える。また、地方自治の基本的な考え方や、地方公共団体の政治の仕組みについて理解するとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。 ける企業の役割と責任について考える。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考える。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解する。 整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の動きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考える。 ついて理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えるとともに、核兵器などの脅威に着目し、世界平和を確立するための熟慮と協力の態度を育てる。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。	
	中2		「1章 私たちの暮らしと現代社会」 「2章 人間を尊重する日本国憲法」 「3章 私たちの暮らしと民主政治」 「4章 私たちの暮らしと経済」 「5章 安心して暮らせる社会」 「6章 国際社会に生きる私たち」 「終章 私たちができること」	・【第1章：私たちの暮らしと現代社会】現代日本の特徴として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解するとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付く。また、科学、芸術、宗教などを中心とした現代社会における文化の意義や影響、暮らしとの関わりを理解するとともに、我が国の伝統と文化に関心をもち、文化の継承と創造の意義に気付く。さらに、人間は 【第2章：人間を尊重する日本国憲法】人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解するとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解し、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行 【第3章：私たちの暮らしと民主政治】国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解し、議会制民主主義の意義について理解するとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深める。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解するとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加 【第4章：私たちの暮らしと経済】身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解するとともに、価格の動きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解する。また、現代の生産や金融などの仕組みや動きを理解させるとともに、社会にお 【第5章：安心して暮らせる社会】社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考える。また、国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の 【第6章：国際社会に生きる私たち】世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識し、国際社会における我が国の役割について考える。その際、日本国憲法の平和主義に 【終章：私たちにできること】持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究し、自分の考えをまとめる。	編集 ニュース マスメディア 情報ネットワーク 情報化 個人情報 緑のダム 林業 人工林 自然災害 公共事業 防災 自助 共助 公助 減災 公害防止条例 国際協力 高度経済成長 税金 選挙 国会 内閣 三権分立 裁判所 日本国憲法 民主主義 基本的人権の尊重 平和主義
	中3		「1章 私たちの暮らしと現代社会」 「2章 人間を尊重する日本国憲法」 「3章 私たちの暮らしと民主政治」 「4章 私たちの暮らしと経済」 「5章 安心して暮らせる社会」 「6章 国際社会に生きる私たち」 「終章 私たちができること」	・【第1章：私たちの暮らしと現代社会】現代日本の特徴として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解するとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付く。また、科学、芸術、宗教などを中心とした現代社会における文化の意義や影響、暮らしとの関わりを理解するとともに、我が国の伝統と文化に関心をもち、文化の継承と創造の意義に気付く。さらに、人間は 【第2章：人間を尊重する日本国憲法】人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解するとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解し、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行 【第3章：私たちの暮らしと民主政治】国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解し、議会制民主主義の意義について理解するとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深める。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解するとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加 【第4章：私たちの暮らしと経済】身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解するとともに、価格の動きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解する。また、現代の生産や金融などの仕組みや動きを理解させるとともに、社会にお 【第5章：安心して暮らせる社会】社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考える。また、国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の 【第6章：国際社会に生きる私たち】世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識し、国際社会における我が国の役割について考える。その際、日本国憲法の平和主義に 【終章：私たちにできること】持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究し、自分の考えをまとめる。	本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、さまじりの意義について考え、現代社会をどう見るかという見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解する。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることに意義及び個人の責任などに気付く。 われていることの意味について考える。また、日本国憲法が基本的人権の尊重、民主主義及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に關する行為について理解する。 の関連について考える。その際、選挙の意義について考える。また、地方自治の基本的な考え方や、地方公共団体の政治の仕組みについて理解するとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。 ける企業の役割と責任について考える。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考える。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解する。 整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の動きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考える。 ついて理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えるとともに、核兵器などの脅威に着目し、世界平和を確立するための熟慮と協力の態度を育てる。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。